



五城目 統合小建設特集号  
 馬川

五城目小学校と馬川小学校を統合し、近代的な校舎を建てて次代になる児童の教育を理想的なものにしようと、ことしの春から進めております。建設場所は山ノ手地内で、こしから三か年の昭和43年度で完成いたしますが、現在までの経過と今後の方針などを特集し、全町民のご理解とご協力を得たいと存じます。

統合小学校  
 建設への私の決意  
 町長 小林源四郎

五城目統合小学校の建設については、すでに今年の二月十八日に町議会の議決を経ており、さらにその後馬川地区から統合を白紙にかえずよとの住民請求がありましたが、議会では四月二十二日に二十一対五の多数をもってこれを否決いたしました。町としてはこの議決に立つて直ちに工事に着手すべきでありましたが、たまたま知事幹旋の声があり、それをめぐって五城目、馬川町P.T.A.の話し合いがあり、私も出来ることなら円満裡に事をすめたいという念願から、出来る限り話し合いの努力をつづけました。しかし各新聞にもありましたように、馬川地区では六月にはいつて、住民大会の名のもとに、山ノ手反対、統合反対、さらには児童の登校拒否も辞さないという決議をあげて反りました。これによつて両P.T.A.の歩み寄りも、五者会談のとりきめも一切水泡に帰し、問題は全くふり出しにもしました。

このような事態にいたりしましたことはすべて私の不徳のいたすところであり、心から町民の皆様にお詫びを申し上げます。しかしこの問題は今年若し機会を失うようなことがあれば、今後数年は建設不可能となり、老朽した五城目小学校は重大な危険にさらされることとなります。また土地と諸物価の値上りにより一年延びることはそれだけ町民の皆様が多大な負担をかけることとなります。町としてはすでに文部省から本年度の建設補助の内示をもらつており、諸般の事情からはや一刻も猶予ならない状態となっております。馬川地区の方々に対してはまことに断腸の思いであります。以上のことについて、町議会の議決にしたがって建設に立ち向う以外に途がありません。

一時は強烈な反対や批判があつても、やがてはそれが町教育の大発展につながる、また二万町民の其の幸福につながる、私は確信いたします。私としては昨年末、両校のP.T.A.、教育委員会、学識経験者、その他広く町民各層の意見を徴し、また議会と一体となり特別委員会、協議会、懇談会と数十回にわたつて協議をかさねほとんどの方法の限りをつくしました。その結果多少の異論があつても、もつともいふ出費で、もつとも理想の学園をつくるには山ノ手以外にないといふことに帰着しました。

現在、町では木を切るより山もなく、この統合小学校建設にあつたつて五城目小学校の現校地や幼稚園の敷地の売却費をこれにあつてはならない実情にあります。以下平直に町の実情をのべ、町民皆様のご批判をおおきたいと思ひます。

◎ 建設には財政の裏づけがなければならない  
 山ノ手は国庫補助が半額、雀館は三分ノ一

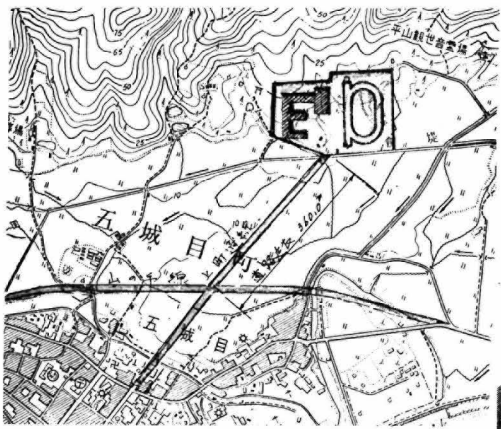
五月三十一日の臨時議会の後、町執行部と議会は学校問題で県庁へ陳情いたしました。その折雀館は五城目小学校から馬川小学校からも一キロ以内にはいり、同一団地とみなされるから国庫補助

は三分の一であり、四候補地のうち、半額補助をもらえるのは山ノ手だけであるとはつきり出して渡されております。そこで、そこに約二千万円のひらきを出し、口では二千万円と申すのが現在の町財政では容易ならざる金額であります。

さらに山ノ手と雀館では、一方は山林、一方は田地であるため、土地の価格が全然ちがいます。しかも山ノ手の場合は校舎の建つ山林(約六千坪)が所有者の協力によつて町有地と二、二倍で等価交換する契約になつており、結果的には町有地に学校を建てると同じことになり、その分だけ現金の支出が少なくなり、甚だ二、二倍に上つていゝるいろまがたつた風評が飛んでいるようですが、今回取得する四渡園の山林は町に一番近く、しかも台地で住宅地にも使えるところです。町が交換するところは町山の中の俗に深沢といふところで、傾斜の多い純然たる山で、四渡園の周辺は現在相当の価格で売買されております。それにもかかわらず安い評価で交換にに応じてくれた所有者の厚意に対しては深く感謝せずにはおれません。またグラウンドとなる田舎の取得にあつても、所有者の全面的な協力をと適正な価格で交渉がまとまりました。これは所有各位の町を愛し教育を思うまごころのあらわれであり、現在の町としてはこれ以下の価格で取得することはほとんど不可能かと思ひます。その他山ノ手にはいろいろ財政上の利点がありますが、その一つをあげると、山ノ手の台地は非常に地盤が強固で、鉄筋の永久建築にはもつとも適しております。そのため地盤補強や土盛り等の費用を要しません。他の軟弱な地盤の土地に学校を建設する場合は、建設費の約一割が地盤補強にかかると言われております。以上のような点から概算すると、山ノ手と雀館では自己負担金が五千万円ちがいが出て来ます。このことをよく町民の皆様から認識していただきたいと思ひます。

また山ノ手は前に広大な田園地帯をもち、山ノ手環状線がすぐ前を東西に走つており、思い通りの都市計画の出来る土地であります。町が目ざす幹線道路をそのまま延長出来るということは、将来の町の大発展につながることであります。一方雀館の場合には大多数の生徒が橋をわたることになるので通学専用の橋も必要になります。また当然のことながらすぐ役場庁舎の移転にとりかからなければなりません。また現五城目小学校の校地に学校を建ててはどうかという意見もありましたが、現在の情勢ではあは校地のうち少くとも三千坪を処分しなければ、建設費の自己負担補助は三分の一で、起債ばかりが多くなり、また校地が狭く運動場は他に求めなければなりませんし、教育環境としても人家の密集地帯で、交通ひん繁なところで好ましくありません。現在、各町村とも

(裏面へつづ)



上 (トッパン) 統合小学校建設地を中心とした縮尺1/4  
 下 (写真) 山手線につなぐ上町線の新道路は、この区画工したこの道路を直線に通学道路がつくれます。写真、点線のあたりに学校が建てられます。



統合小学校等の建設には、財政上から現校地は出来るだけ高く売って学校は地価の安い郊外に移転することが定石となっております。また、たしかな情報によると統合小学校に対する国庫補助は昭和四十三年で打ち切りになるといふことですが、若しそうなら財政はますます困難となります。幸い今年には県内に統合小学校の申請が他にありませんので、国庫補助が非常に有利な条件で確保することが出来た。今年は三百坪の補助ですが、来年は八百坪の補助が付くという内示を受けております。従って来年度中に本校舎が完成し、早ければ来年の初冬から生徒が新校舎に移ることが出来ます。若し馬川地区の反対によって、建設を中止するようなことになれば補助金は返上しなければならず、今後の建設に重大な支障をきたすこととなります。

また一年延期すれば、現在の土地値上りのムードの中では、かりに坪から千円もがつも、一万二千坪の用地を取得するには全体で一千万円程度の欠損になります。その他資材、人件費等の一切の値上りを加算すると、その損失はかり知れないものがあります。また延期によつては、町政の一部がストップします。これは目に見えない損失となつて、五城目町の発展を大きく阻害することになります。

### 山ノ手の敷地とはどんなところか

上町通りの都市計画路線が直直ぐにつきまತ್ತつたところが山ノ手である

山ノ手というところにも山の奥のような感じに受けとられますが決してそうではありません。今年中に常演寺に約二千百万円の手算で戸村堰の向うがわに移転いたしますが、そうなる、消防署から直線コースで、校地までわずか十分で行けます。校舎の建つところはその都市計画線の下きあたつた左が木の台地で三階の校舎が出来るとその白亜の殿堂が下町通りからまっすぐにのぞまれます。また今年中に高性寺裏の沿海小路が拡幅されて、山ノ手の環状線に結ばれることとなり、通学の便がいつそうよくなります。また新開等にはすぐ近くにトサツ場があるようにかかれておりますが、校舎から六百メートルはなれております。しかし将来は山ノ手一帯が都市化されることと思ひますので、トサツ場は早晩他に移転すべきものと思ひます。

昨年十一月十八日に町の教育委員会から山ノ手があらゆる条件から教育環境として最適地だといふ詳細な答申書が出ております。その中に学校に通ずる道路が一本で、児童の安全管理に非常によいといふ指摘もありましたが、町では山ノ手線から校門まで九米巾の立派な舗装道路をつくることになっております。台地の高さは約四米です。校舎は旧町に向つて南面し、しかも前に通路をもち、後ろに山林を背負い、理想の校舎を思う存分つくる事が出来ます。予定される校舎千三百坪鉄筋三階建、それに二百六十坪の近代的な体育館が附属します。グラウンドは校門から右がわで校地より一段低く、三百米のトラツクを中心に八千坪の総合的体育施設をつくります。

また近くには四度園の遊園地や前平の城跡等もあり、空気は澄んまき、教育環境としてはこれ以上の場所はないと自負しております。孟子の母が子供の教育のため環境を三度変えたといふ孟母三遷の話はあまりにも有名ですが、教育問題でもっとも重きをなすものはやはり環境で、完備した設備の校舎で、新しい近代教育を行いたいというのが私のかつらぬ念願であります。

### 馬川地区の反対について

馬川地区はこれまでめぐまれたところに小学校を持つており、しかも馬川村当時からの学校であり、その郷愁は容易に断ちがたいものがあると思ひます。しかし馬川小学校は現在生徒数百四十一人、なかにはわずか十五名の教室もあるくらいで、次第に小規模学校化して行く現状であります。従つて父兄の方々も決して統合には反対ではなく、町の統合小学校の準備委員会、促進委員会にも参加し、一昨年十一月の促進委員会の答申にも賛同し、山手、悪土、雀館、現地の四候補地をあげ、そのいずれに決定しても異議のないことを申し合せております。また最近の両PTA、教育委員会の三者の懇談会でも統合を前提とし、山手、雀館、現地の三候補地をあげ知事がそのいずれに決定しても異議ないといふことを決議しております。

結局 馬川部の最も大きな反対の理由は統合そのものではなく、

山ノ手が遠いということにあるようです。しかしこのことは私が議会でなんども説明しているように、人為的にいくらでも解決出来ることであり、スクールバスを出そうとするならば話し合つております。また知事は広ヶ野の水源地に橋をかけるならば県でも補助金を出すと約束して下さる。このような橋や道路の整備によつては通学距離はさらに短縮されます。現在馬川の一番遠いところからでも四キロ未満です。

昭和三十一年に統合した本庄市の新山小学校では生徒は七・三キロから通学しております。なかには三キロ歩いてバスで通学している生徒もおります。四キロ以内では決して遠いとは言われません。かえつて雀館に敷地が決まるようなことがあれば、浦横町方面の生徒は五キロの道の歩を歩かなければなりません。

山ノ手は馬川と浦横町方面のほほ中間にあつており  
いづれからも文部省規準の四キロのなかにはい  
てゐる。

本庄の新山小学校は最新の統合小学校であり、この度県教育委員会のすすめにより町当局と教育委員が視察いたしました。この学校は五城目町と同じように山手にあつて、しかもはるかに高い山の中腹に建つております。百米に近い標高で生徒達はバスを下りてから二百米も山道をのぼらなければなりません。それにくらべると五城目町では山ノ手は地形や距離に問題はないはるかすくなく結果、つ町議会の山ノ手もこの敷地問題は二年間もみにんでおり、ついに十八対十の結論を出したものであり、決して突如として山ノ手案が出て来たものではありません。かりに馬川地区の反対が効を奏し、学校が雀館へ移つた場合、その時には当然、旧町や岡本浦横町方面から猛烈な反対のおきことは火をみるより明らかであります。馬川小学校の生徒数は百四十一名であり、旧岡本浦横町方面からそれを上まわる生徒が現在五城目小学校に通つております。馬川地区は山ノ手には全員反対だと申し出ておりますが、岡本方面の人達も雀館には全員が反対するかも知れません。そうなるや学校問題は宙にまよひ、学校はいつまでも建てられなくなり、五城目小学校の現状は今更申し上げるまでもなく十分ご承知かと思ひます。現在の五城目小学校は今やものを学ぶふところの環境ではありません。雨の日は校庭が泥沼のように学ぶこと。吹雪の日には教室はまっ白になります。今年の冬は教室にビニールを張つて寒さをしのぎました。若し台風や地震におそれたら、どうなるか、誰れが生徒の安全を保証するか。問題を思つてじつとしておれない気がいたします。誰れでもむずかしい問題をきけて通りたいのが人情です。しかし五城目小学校の現状を思つ時、私は為政者としての大きな責任を感ぜずにはおられませんか。とにかく一日も早く学校を建てて、生徒や父兄の方々に安心していただきたい。そのためには馬川地区の父兄の注文はなんでもきいてやりたい。これが私のいつわりのない気持ちです。

かつて五城目町では一部の頑強な反対のために鉄道を失ひ、また農学校を失ひ、また戦後は五城目高校まで失ひかけました。事にあつて一致出来ないことが五城目町の最大の難点であります。そのため過去においてどれほどの損失をまねいたか知りません。反対の理由もこのようにどれほどの損失をまねいたか知りません。反対れば、五城目町の将来の発展はとうていそのぞまれないと思ひます。幸い現在の五城目町には以前のようななみにくい派閥の争ひがなく、なりました。これは衆人のもめるところであり、私も深くそう信じております。今こそ五城目町は「争ひの町」の不名誉を返上し、一致団結して、次世代の子ども達のために、一切を水にながし一日も早く理想の学園をつくるべきです。そうすることによつて町も一変し前途はいよいよ明るいものになります。私も決意を新たにしてがんばります。町民皆様のあたたかいご同情とご協力を心から願つてやみれません。

最後に、私はいままでもこの問題に身をかけた努力してまいりましたが、その過程で学校建設とは別に、私個人として皆さんに対し失礼な言辭や、誤解を招くようなこともあつたと存じますが、その点はどうかお許し下さるよう改めておわび申し上げます。なお浦横町の問題については町の企画機能をあげ、移転阻止に激しい努力をほらしております。今月中にもその結論が出ると思ひます。町では広瀬町等早速厚札の届出しお知らせいたします。結論は陳情等ではないといふご協力をお願い申し上げます。

(訂正) 一四の先から四行目二十一行五のあやまりです。  
61(1)に訂正して下さい。